



第18回「Qの会」

研修会報告

10月27日香川大学において、第18回「Qの会」研修会が開催されました。

今回の研修会は「大血管障害と糖尿病看護」をメインテーマに、「糖尿病と大血管障害の病態と治療」「禁煙指導の実践について」という二つのテーマについて二人の講師を迎えて、講演を受け、グループディスカッションを行いました。

講師は香川大学医学部付属病院 循環器内科 村上和司先生と、坂出市立病院 慢性呼吸器看護認定看護師 山崎昌代先生でした。

村上先生からは、糖尿病の合併症である大血管障害のなかの虚血性心疾患および閉塞性動脈硬化症の病態と診断、さらに最新の治療についての詳しい講義がありました。

山崎先生からは、禁煙外来の実際とセルフマネージメントアプリや行動変容の変化について学びました。

講演後のグループディスカッションでは坂出市立病院の松内香織さんから提供された事例について検討し、その内容を基に患者役と看護師役に別れて、ロールプレイを行いました。実際に患者役になって改めて、指導や患者に対する関わりを考え直す機会となりました。



研修会のアンケート結果

第18回研修会参加者38名のうち30名より回答をいただきました。

参加されたきっかけは「テーマに興味があった」が最も多く「専門性を高めるため」「単位取得のため」となっています。

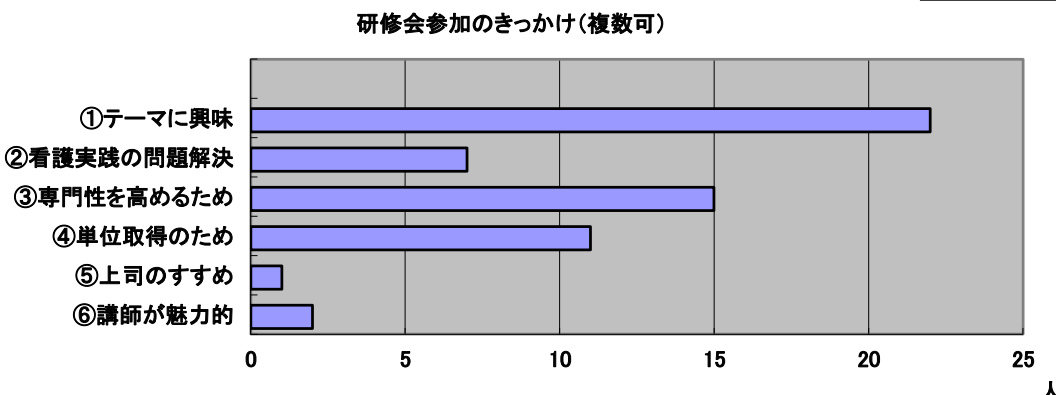
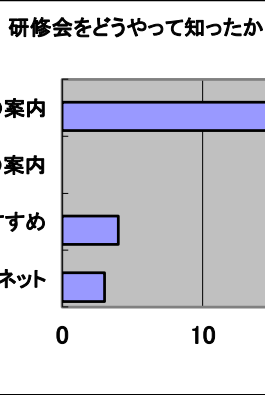
講師・内容については、「おおいに良かった・良かった」の意見がほとんどでした。理由として、「専門的な検査や治療についてよくわかった」「症例やイラストがあつてわかりやすかった」などがありました。

講演に関しては、6%の方があまりよくなかったと回答しました。理由は「新しいことがなかった」「実際に指導した具体的な内容が欲しかった」でした。

ロールプレイについては「空気が和んで意見が出しやすかった」「改めて指導方法について考える機会となった」などの意見がありました。時間配分については、「少し短かった」「不足していた」という意見が40%あり、理由としては「問題点を見つけてロールプレイするには短かった」「時間が短く役の交代ができなかった。他の人のロールプレイも見たいかった」でした。

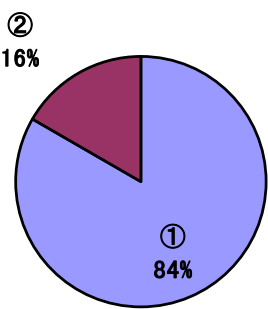
今後の研修についての希望は「病診連携について」「糖尿病の新薬について」「糖尿病性網膜症について」などがありました。

その他として「Qの会の研修会は実践に役立つ内容で意義深いと思います」「他のスタッフにも参加を勧めてみたいと思います」など心強い意見をいただきました。アンケート結果は、下のグラフをご参照ください。

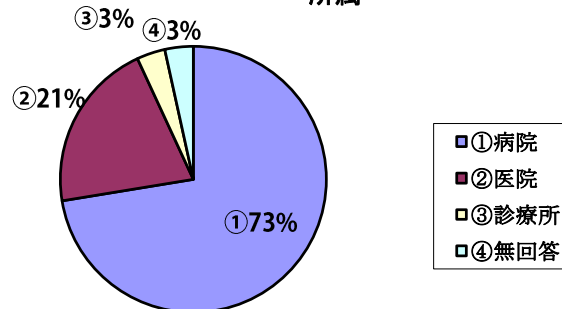


研修会風景

療養指導士の資格



所属



「Qの会」平成26年度総会・第19回研修会のご案内

日時：6月22日(日) 10時から16時30分
場所：香川大学医学部看護学科 3階 305教室

メインテーマ
『糖尿病と地域連携』

講師：J A山口厚生連周東総合病院 地域医療福祉連携室 保健師 佐川京子 先生

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第57回日本糖尿病学会・・・第2群4単位
日時：2014年5月22日(木) 12:40(土)

場所：大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル・ホテルNCB
連絡先：TEL 06-6221-5933

★第2回日本糖尿病協会 療養指導学会
日時：2014年7月12日(土) 13:30(日)

場所：国立京都国際会館
連絡先：日本糖尿病協会 学術集件事務局
TEL: 03-3514-1721

★第20回日本看護診断学会・・・第1群2単位
日時：2014年7月12日(土) 13:30(日)

場所：神戸国際会議場
連絡先：TEL 06-6377-2188

★第14回日本糖尿病情報学会年次学術集会・・・第2群 2単位
日時：2014年8月2日(金) 13:30(土)

場所：じゅうろくプラザ (岐阜県)

★第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会・・・第1群または第2群 4単位
日時：2014年9月20日(土) 12:10(日)

場所：長良川国際会議場他
連絡先：FAX 03-3508-13002

「実践知を共有しよう」

とみおか内科クリニック 新岡美由紀

こんにちは。Qの会は県下の糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師や糖尿病看護に関心のある看護師がお互いにつなぐって、実践や研究能力を高め合い、更なる専門的な能力を洗練していくことを願い、糖尿病看護の質をさらに向上させていくために設立された会です。糖尿病をもつ人々を支援していくには、その人の生活習慣や今の状態をどう捉え、どう取り組んでいるかをキヤッチすることがとても大切で、目の前にいる患者さんのエピソードによく耳を傾け、情報収集をすることから始まります。患者さんが理想と考えている療養生活を知り、それが実行できているか？出来ているなら、次のステップをとともに考え、もし実行できていないのなら、どうしてできないのかをとともに探る。そのためには患者さんの糖尿病をよく知ることが必要です。

日々進化している糖尿病の治療や看護のあり方や糖尿病をどう看るかのスキルを身につける為に、日本糖尿病学会や日本糖尿病教育・看護学会学術集会や糖尿病学の進歩といった学会に参加することはとても楽しいです。また、Qの会のように今からの糖尿病療養指導に求められることや私たちの知りたいたい糖尿病に関係することをテーマにして、研修会を企画して単位取得ができれば一石二鳥です。

「Qの会」は内容が難しくそうで行きにくいわ」と耳にしたことがあります。そんな風に思わないでほしいです。私自身も知りたいことがいっぱいあったので参加です。講師の先生が伝えてくれる情報や知識を、症例を検討する時に使うことも疑似体験できるのでお得です。また、現場に戻り実際の患者さんについての問題点を考える時の手助けにもなります。

Qの会の研修会は年2回春と秋に行っています。先日の研修会のテーマは「大血管障害と糖尿病看護」についてでした。喫煙の影響なども踏まえた大血管障害、特に心筋梗塞について香川大学医学部付属病院 循環器・腎臓・脳卒中内科の村上先生より講義いただきました。冠動脈撮影の読影や心電図の変化を読むなど、日頃、自分たちが目に見ている患者の検査の写真や心電図チェックの時に目に見えるポイントを再確認でき、ワクワクしました。質疑応答でも、知りたいことに答えていただき、とても良い研修でした。そしてQの会ではさらに慢性呼吸器疾患認定看護師の山崎さんから「禁煙指導の実践」を聞き、看護を学ぶことが出来ました。指導するのではなく、学習を援助することが今の支援方法で、禁煙しようと思っている人」にその理由を確認することが重要。禁煙を考えていない人に禁煙を勧めることは、患者・看護師ともにストレスなので、考えている人へのみアプローチして、卒煙に導くことは、なるほどなあと感じました。その後、症例検討をして、禁煙のアプローチ法について考えることが出来ました。

これからも、「今、求められるテーマ」を選んで、療養指導する時に役立つように企画・運営のお手伝いをしていきたいと思っています。皆さんからの、「知りたい」をぜひ、発信して下さい。よろしくお願ひします。

◆編集後記：私(木村)事です。4月から腎センターに異動になりました。改めて糖尿病(腎症)指導の大切さと透析になる事は「終わりの」ではないと感じました。

広報担当 木村裕美・串田久美